

メコンチャレンジでカンボジアが優勝しました！

若者を対象にメコン流域 6 か国でビジネスモデルやビジネスプランを競うコンテスト「メコンチャレンジ」(マッキンゼーが主催)が、3月14日、ベトナムのハノイで開催されました。各国のコンテストを勝ち抜いた上位 2 チームずつが、この「メコンチャレンジ」に出場しています。カンボジアとミャンマーの代表としてはそれぞれ、CIESF が起業家育成事業として支援しているビジネスモデルコンテストの 1 位と 2 位のチームが出場しました。

今回の「メコンチャレンジ」では、カンボジアのチームが 1 位を、ミャンマーのチームが 3 位を受賞しました。どちらも開催以来初の受賞となります。CIESF は、カンボジアで 5 回、ミャンマーで 4 回ビジネスモデルコンテストを開催してまいりましたが、国外の大会で評価されたことは初めてであり、起業家育成支援活動を続けてきたことが実を結んだとても喜ばしい出来事でした。受賞したチームのみならず、おめでとうございます。これからの起業と活躍を応援しています！



カンボジアの教科書事情 ⑤

「国境なき教師団」の元教育アドバイザーである筑八郎(かけひはちろう)先生がまとめた、「カンボジアの教科書事情」についてご紹介します。カンボジアでは無償なはずの教科書が児童や生徒に行き届いていないという問題のほかに、内容にも問題があるようです。ニュースレター 2 月号の続きです。

CIESF のウェブサイトの「教育の現状」の中に「教科書等教材の問題」という項目があります。要約すれば次のようになります。

- ①外国で作られた教科書がそのままクメール語に翻訳されて使われている。
 - ②翻訳者が教科書の内容を理解しておらず、誤訳も多い。
 - ③教科書の内容がカンボジアに即していないことも多い。
 - ④学生が、教科書に掲載された実験や器具を見たことも触ったこともない。
- 指摘されているように、教科書の内容には改善すべき点がたくさんあります。



段階をふんで系統的に学べるような記述になっていないことも結構あります。同じような内容を複数の学年で学ぶこともありますが、くり返し学習という意味なら大丈夫でしょう。逆に、それまでに押さえておくべきところが抜けていて、急により高度な概念が登場することもあります。教科書の記述は正しいという考え方が結構根深いようですが、この点も問題です。そのために教科書の内容の検討、記述のチェックがあまりなされていないように思います。(次号に続く)

CIESF サポーター募集

- 法人サポーター 1口10万円(寄付から1年間)
- スペシャルサポーター 1口5万円(寄付から1年間)
- 個人サポーター 1口1万円(寄付から1年間)

三菱東京 UFJ 銀行 青山支店(店番 608)普通預金
口座番号 0021714
口座名 公益財団法人 CIESF 理事長大久保秀夫

※ゆうちょ銀行、楽天銀行、クレジットカードでのご寄付については、CIESF ホームページをご覧ください。



CIESF の支援活動は寄付で成り立っています。皆さまのあたたかいお気持ちをお待ちしております。

編集後記 3月末はいろいろな面で締めくり感がありますニッポン。数年前の4月1日付で職員となった私にとっても、3月31日はCIESFの期末と同時に自分の1年の締めなのであります。1年の反省会をする期末。(YM)

発行:公益財団法人 CIESF
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-7-5
URD 渋谷第 2 ビル 4F



CIESF NEWS LETTER

シーセフ ニュースレター

2015 March

第 30 号

公益財団法人 CIESF(シーセフ)は、非営利で国際的な民間の支援団体です。基礎教育の質の向上を主な目的とし、その上で高度人材育成も行い、カンボジアをはじめとした途上国の発展を支援します。

「国境なき教師団」活動報告会を行いました

カンボジアの教員養成校の教官のレベルアップを目指す「国境なき教師団」の活動にご賛同いただき、4年前からご協力くださっている東京のロータリークラブの方々が、活動視察のため、カンボジアにいらっしゃいました。東京の13のロータリークラブを含む21のロータリークラブのご支援で、2014年3月から2015年2月まで、教育資材の提供と日本人ボランティア2名をプレイベン州教員養成校に派遣する事業を行っていただきました。本事業はロータリークラブのグローバルgrantを通して、カンボジア教育支援を実施していただいているものです。



「国境なき教師団」日本人ボランティア(教育アドバイザー)による活動報告

東京のロータリークラブを代表して7クラブの方々がカンボジアに視察訪問にいられたので、活動の成果を知っていただくために、2月上旬に活動報告会を開催しました。報告会では、日本人ボランティアの教育アドバイザー2名だけでなく、支援を受けたプレイベン州小学校教員養成校の校長先生はじめ、理科と算数の教官にも発表していただきました。



【ここがポイント！】

左が理科右が算数の教官です。机上のものはこれまで手作りしていた教材、手に持っているのが支援を受けた教材です。精巧な教具とその使い方をマスターし、積極的に授業に取り入れたことで、教官を目指す学生たちの理解が高まっています。「国境なき教師団」が支援活動を行っているプレイベン州小学校教員養成校は、ベテランの教官たちが率先して新しい知識や技術を学び、若手の教官たちの見本になっていることが、とても素晴らしいケースです。

発表したカンボジア人の教官は、「理数科の教材を支援していただくだけではなく、日本人ボランティアの先生が、使い方の指導や管理の仕方、実験方法などを教えてください、教師としての能力が高まりました。とても良い関係を築けている。」と、成果について報告してくださいました。ロータリークラブのご支援のおかげで、カンボジアの教員養成校では、教材教具が少しずつ増えてきました。しかし、授業の中で学生たちが教具に手を触れて体験してもらうには、まだまだ数の教材教具が必要であり、まだまだ教材教具の数は不足した状態です。限られた教材の中で、各教員養成校に派遣された日本人ボランティア教師が創意工夫しながら、現地の教官たちに指導をして、教師育成のために、日々活動をしています。



【講演いたします】

CIESF では、活動をお伝えする講演活動を行っています。話者は、CIESF 創設メンバーであり、理事・事務局長の戸田陽子です。団体設立から日本の事務局運営を行ってきた女性の視点で、カンボジアをはじめとした途上国にとって、今必要な教育支援についてお話いたします。少人数からイベントでのコンテンツとしてなど、ご相談に応じますので、ご興味のある方はお問い合わせください。

特集 教育関連企業と社会貢献⑧

カンボジアをはじめとした途上国の教育支援を行っている私たち公益財団法人 CIESF は、日本の教育について調べて、考えてみることにしました。現在カンボジアにおいては、学校という建物(=ハードウェア)ではなく、教育の中身(=ソフトウェア)の支援を行っています。具体的には、教師の質の向上を目指しベテラン教師を現地の教員養成校に派遣する「**国境なき教師団**」事業。そしてカンボジア教育省の若手官僚から国の教育政策を担う人材を育成する**教育政策大学院大学事業**です。日本の教育に基づいて、カンボジアに適した形でアドバイスをを行うのですが、基本となる日本の教育について、きちんと知っておかなければならないと思いました。現在、日本の教育も様々な課題を抱えています。その課題解決の課程や方法は、将来、途上国の教育支援に必ず活かせると想定しています。

この特集では、教育関連事業を行っている企業・団体の方にインタビューを行い、学校とは違う角度で日本の教育における課題について伺っています。



カンボジアで活動する「国境なき教師団」の教育アドバイザー

東京コミュニティスクール 後編その 2

今号では、知力だけではなく、豊かな心や健康な体などの生きる力を兼ね備え、社会性をもった一人一人の人間の成長を支援するための教育を行っている、NPO 法人東京コミュニティスクール(東京都中野区)のご紹介の後編その 2 です。お話を聞かせてくださったのは、校長の市川力(いちかわちから)さんです。

「学校とは総合施設を意味するものではない」

東京コミュニティスクール(以下 TCS)教室に入って、まず驚いたのが、各学年の机の間に壁がないことです。開放的な広々としたスペースを、学年ごとに固まって机を並べそれぞれが授業を行っています。椅子には背もたれがありません。リラックスしながら学習したい子は、床に座って勉強をしています。担任の先生の机もありません。可動式の椅子で自由に動き子どもたちと接しています。

「なぜ教室に壁が必要? 机の配置ってそんなに重要? 椅子に背もたれがなくても文句が出たことなんてありませんが」市川さんは語ります。

「学校って、ハードウェアがないとできないもの? そう考えてみたのです。たとえば TCS を第一校舎と考えた場合、近くにあるホームセンター島忠は第二校舎です。ホームセンターにはいろいろなものがあるので、子どもにとっては理科実



勉強をする教室に仕切りはありません。学年ごとに部屋がわかれる必要性がないからです

験室や家庭科室のようなものです。第三校舎は区立図書館です。平日の日中は利用者もほとんどいませんし、司書の方は子どもたちにとって、ラーニングアドバイザーになってくださいます。運動ができる広い公園にも恵まれていますし、スポーツクラブのプールも利用させていただいています。地域全体を学校と考えた場合、施設は十分満たされています」

この話を聞いたときに、必要な施設を必ずしも学校の敷地内に全部持つ必要などないのではないかと思います。地域の施設を使うことによって、学校と地域のコミュニケーションも生まれます。とても新しい学校のカタチだと考えられます。この考えは、途上国に生きてくるのではないのでしょうか。予算がなく、学校に立派な設備をすべて整えられなくても、地域にあるさまざまなインフラを工夫して共有することで、補える授業もあるかもしれません。逆に、学校を地域の住民に使ってもらうということも含めて。

今回取材させていただいて、とても印象に残った言葉があります。「東京コミュニティスクールは、学校ではなく、“人を育てる場”です」という言葉です。これからの世の中は正解がないと言われています。そんな時代を迎えようとしているときに、ひとつの答えを導く学習だけでは、時代を器用に生きる人財を育てることは難しいのではないのでしょうか。壁にぶつかったときに、まず自分でどうにかしようとする力を身につけるには、小学生時代はとても重要だと、あらためて実感しました。

最後に、TCS には小学校しかありませんが、卒業後に普通の公立や私立の中学校や高校に通って、子どもたちに不満はないのか聞いてみました。意外にも、卒業生はほとんど普通の中学に進学するそうですが、もしそこでつまらないと悩んでもそれも重要なことであると TCS では考えています。

「順風満帆に育てられても、大人になったら困るだけ。悩んだときは自ら考え道を切り拓いて行くのです。」(市川) 今年でちょうど 10 年。失敗したら不具合を修正しながら積み上げてきた 10 年分の実績が、跳ね上がるように飛躍する 2015 年になるような、そんな雰囲気を持つ学校でした。これからもぜひ注目させていただきたいと思います。

(インタビューー CIESF 事務局 増子夕夏)



【スタッフを紹介します】 カンボジアオフィス キェウ パニー

CIESF カンボジア事務所の職員として勤務しているキェウ パニーと申します。CIESF の職員として、CIESF の支援活動を発展させていき、カンボジアの人材育成や国の発展に貢献できるように、精一杯仕事に取り組んで、たくさんのことを学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

ご支援ありがとうございます (2 月)

CIESF の活動は、多くのサポーターの方々に支えられています。法人サポーターの皆さま(プラチナ・ゴールド・シルバー・ブロンズサポーター他)・個人サポーターの皆さま(スペシャル・個人サポーター・「国境なき教師団」応援団他)には、心より感謝申し上げます。2 月にご寄付を頂戴した方々を下記にご紹介させていただきます(2/1~2/28)。

- 法人サポーター(プラチナ):株式会社タウンズポスト ■法人サポーター(ゴールドサポーター):株式会社日本防犯システム/株式会社ジャパンファームプロダクツ/メディアスイート株式会社/株式会社ストーン・フィールド/扇町運送株式会社/株式会社ソーシヤルマーケティング研究所/トライポッドワークス株式会社/有限会社プロテクト/中部シーアイシー株式会社/株式会社ロイヤル/港製器工業株式会社/ダイイチデンシ株式会社/FLS ジャパン合同会社/ IINA 株式会社/株式会社キャディッシュ
- 法人サポーター(シルバーサポーター):ペイフォワード /株式会社小島組/興亜商事株式会社/株式会社フリーセル ■法人サポーター(ブロンズサポーター):株式会社ミロク情報サービス/株式会社トライキッツ/株式会社ミライク ■支援企画寄付:リネットジャングル株式会社/スマイルキューブ株式会社 ■スペシャルサポーター:河野孝/川原貞治 ■個人サポーター:ヤツグヒカル ■「国境なき教師団」応援団:栗原静子/青木繁/鎌田勝吉 ■一般寄付:日経 BP 社

※以上敬称略